

③ふるさとをつなぐ

「よごふるさと科（生活、総合的な学習の時間）」では、地域と連携・協働して行う活動をカリキュラム化して、子どもも地域の人々も学び合える教科としています。また、地域に支援してもらっただけでなく、子どもたちが地域にどう貢献できるかもテーマの一つとしています。

第1ステージでは、体験や調査活動を通じて、余呉の良さや課題に気づく学習、第2ステージでは、余呉の魅力や課題を学び伝える学習、そして、地域の様々な人に学ぶ第3ステージでは、いろんな考え方、生き方に触れ、自己の生き方や将来について考えます。



▲調査活動の成果はスライドにまとめ、地域でプレゼンテーション

交流の中で 芽生える責任感



学園生会 会長 松橋 怜さん(8年生)
副会長 中村 綾希さん(8年生)

1年生から9年生までが一緒に生活しているので、学校がとても賑やかになり嬉しいのです。低学年の手助けをすることや、みんなのいいお手本になりたいという思いから、責任感が高まったと思います。

昼休みや、運動会などの行事では、違う学年の子たちとも話す機会が増えて楽しいです。

よごふるさと科では、余呉のことをたくさん学びました。このことは、私たちの将来に、きっと役立つと思います。

地域ぐるみの子育てが 地域を育てる



余呉中学校
学校運営協議会
会長 國友 喜代則さん

地域みんなで子どもたちを支え、見守れるような仕組みが理想的だと考えています。

地域の学校運営への関わりは従来から熱心でしたが、余呉中学校になったことで関心が高まり、地域も子どもや保護者と一緒に授業に参加するなど、より積極的に関わろうとする動きが出ています。

今まで学校中心で行われていた行事も、子どもたちの学習成果の発表の場を地域で持つなど、地域と子どもが関わる機会も増えてきました。

余呉のことを知り、考え、発信していく独自科目「よごふるさと科」では、子どもも目線での余呉地域活性化について考えてもらっています。子どもたちが今、自分が住むまちのことを考えることは、大切な故郷として子どもたちの心にいつまでも残り、将来的に



▲学園生、教員、地域住民が参加したワークショップ

地域との関わりへとつながっていくのではないかと考えています。
また、子どもが地域に関わることは、伝統や地域文化の継承につながっていくなど、地域にとっても非常に大きなメリットがあります。
地域ぐるみで子どもを育てることで、地域もそれによって育っていくのです。

今後も広がる 新しい学校づくり

虎姫地域でも、小中一貫教育による「つなぐ教育」への取組が始まっています。

平成30年3月に、「虎姫地域 小中一貫教育校グランドデザイン」が策定され、平成32年4月の開校に向けて準備を進めています。

義務教育9年間の一貫した指導はもちろん、虎姫地域には認定こども園、小学校、中学校、高等学校が集まっており、多様な交流・連携による高い効果が期待されています。

未来を担う子どもたちを育成するために、今後も、地域の良さや特色を活かした新しい学校づくりに取り組みます。



▲虎姫小学校の校門であいさつ運動をする虎姫中学校の生徒

つながりが生み出す 良い化学反応



余呉中学校
校長 筑田 利美さん

まず驚いたのは、中学生の変化です。笑顔で挨拶してくれる子が増え、優しく、表情が豊かになりました。

日常的に下の子たちと生活する環境が、子どもを確実に成長させています。下の子にとっても、中学生はとても良いモデルになっています。

学園生総会では、全学園生が参加していましたが、討議は4年生以上ですることになっていました。しかし先輩が質疑応答する姿を見て、2年生から手が挙がり、放送委員会に「お昼にクイズをしたらどうですか」といった意見が出たので驚きました。総会が意見をいう場だと自分で理解し、自分の意見を堂々と発言したのです。実は大人が勝手に「できない」「難しい」と判断しているだけのことがたくさんあるのではないのでしょうか。



▲後期課程(中学校)職員による読み聞かせ

夢の式(1/2成人式)では、3年生が司会をして、第1ステージで4年生をお祝いします。リーダーとして活躍する4年生に感謝し、次は私たちがその役割を担うんだと意気込んでいる。従来の3、4年生は中間の学年でしたが、リーダーとして十分にその責任を果たせることがわかりました。上からも学び、自分たちも上に立って学ぶ。一緒に生活することでお互いの良い化学反応が起こっているのです。

教職員も一つの職員室に入ったことで、互いの文化が大きく異なることを実感しました。その中で小学校職員のきめの細かい配慮や中学校職員の専門性など、お互いのよさに気づき、尊敬し合うことで、小中の「協働」と新たな学校文化が生まれ



▲ICTを積極的に取り入れた学習(3年生よごふるさと科)

ています。

従来の小学校では6年生を目標としてきましたが、本校では9年生、さらにはその先の進路をゴールとして意識するようになりました。1年生からの成長を見ながら、どこでつまずきやすいのかを知り、いかに伸ばしていくのが実践できます。各教科の進捗も継続して把握できるため、学習の積み上げや繰り返し効果的に行えるのです。また、中学校職員が5、6年生の一部教科を教えることで、子どもの学習に対する意欲が上がっているのを感じます。

「よごふるさと科」やICTの活用など特色ある学習活動を充実し、地域のよさを活かした教育で、一人ひとりが主体的に学べる学校をめざします。